

社 会

(2025年度)

《注 意》

1. 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開けてはいけません。
2. 問題用紙は7ページまであります。解答用紙は2枚です。試験開始の合図があったら、まず、問題用紙、解答用紙がそろっているかを確認、次に、すべての解答用紙に「受験番号」「氏名」「整理番号」を記入しなさい。
3. 試験中は、試験監督^{かんとく}の指示に従いなさい。
4. 試験中に、まわりを見るなどの行動をすると、不正行為^{こうい}とみなすことがあります。疑われるような行動をとってはいけません。
5. 試験終了^{しゅうりょう}の合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
6. 試験終了後、試験監督の指示に従い、解答用紙は書いてある方を表にして、上から、(その1)(その2)の順に重ね、全体を一緒に^{いっしょ}裏返して置きなさい。
7. 試験終了後、書きこみを行うと不正行為とみなします。

次の文章をよく読んで、4 ページから 7 ページの問いに答えなさい。

君は本を読むことが好きですか。家にはどのような本が置いてありますか。本が好きな人も、そうではない人も、小学校や地域の図書館にたくさん並んでいるのを目にしたことがあるでしょう。図書館には本以外にも、雑誌や新聞などがあります。それらのほとんどは束ねた紙に文字が印刷されたものです。最近では画面上の文字を読む機会も増えてきています。私たちは文字で記されたいろいろなものを読むことで多くの情報を手に入れてきましたが、なぜ私たち人間は、これほどまでに文字を読むことを大切にし、ずっと昔から続けているのでしょうか。ここでは古くから人間が残してきた書物や文字、それを伝える技術と社会の関係について考えてみましょう。

文字を使って記録を残すようになったのは、人類の歴史のほんの一部分でしかありません。紀元前に地中海の沿岸地域でうまれたアルファベットは、おもにヨーロッパに広まりました。これとは別に中国では漢字がうまれました。漢字は 1 世紀ごろ日本列島に伝わりましたが、細かい情報を記録して伝えたり、読み書きをするための手段としては使われていませんでした。ア. 名前や位^{くらい}を石や金属などに刻み、権威^{けんい}を示すために漢字は使われていました。

やがて、朝鮮半島^{ちようせん}などから仏教がもたらされたり、中国との交流が盛んになると、漢字のいろいろな読み方も日本列島に伝わりました。はじめのうち、漢字で記されたものを読み書きするのは、一部の僧^{そう}や役人^{えきじん}くらいでした。日本列島に住む多くの人は、文字を書いたり読んだりする必要のない生活をしており、中国とはまったく異なる言葉を話していました。また日本列島の中には、朝廷^{てうてい}とは異なる言葉を話す イ. 隼人^{はやと}や蝦夷^{えみし} のような人たちも暮らしていました。

ところで、奈良時代^{なら}や平安時代^{へいあん}、文字はどのようなものに記録されていたのでしょうか。製紙の技術が日本列島に伝わった時期には諸説ありますが、遅くとも 7 世紀には中国から伝わったといわれています。ウ. 701 年に定められた律令^{りつりよう}では、紙作りは役所の仕事の一部分とされていました。中国や朝鮮半島の技術をよく知る人たちを中心に紙は生産され、しだいに書きやすさや丈夫^{じやうぶ}さなどを追求した和紙の製法が編み出されていきました。

ただし、紙は高級品だったので、日本では、木や竹を薄く板状にした木簡^{もくかん}、竹簡^{ちくかん}とよばれるものがおもに使われました。エ. 奈良時代の遺跡^{いせき}を発掘すると、律令などの法律や税を納めた記録が書かれた木簡が出土します。奈良時代や平安時代、役人は文字記録を読み書きできなければいけないので、漢字練習をした木簡も多く出土しています。

公的な場では、漢文（漢字だけで記された中国風の文章）を用いて記録することが求められましたが、いろいろなできごとを文字で記録するうち、日本語の発音をそのまま漢字で記録する必要もでてきました。とくに地名や人名、または（オ）のように、日本語としての音が重視されたものは、漢文とは異なる表現方法が求められました。その方法の一つが、「万葉仮名^{まんようがな}」です。ただ、万葉仮名は画数も多く、書くのに時間もかかりました。そこで漢字をくずして早く書けるようにした仮名（ひらがなとカタカナ）が生まれ、漢字と並行^{へいこう}して使われるようになりました。こうして日本語は、漢字とひらがな、カタカナを組み合わせで記されるようにな

っていったのです。

この便利な日本語の表現方法は、平安時代、貴族の女性を中心に広まったといわれていますが、やがて貴族の男性、仏教の僧にも広まりました。そして平安時代の末期に力をつけてきた武士も、書状（手紙）を書くときには漢字とひらがな、カタカナを組み合わせるようになり、武士たちは書状の末尾にみづから名前を書き記しました。カ. 名前の漢字をくずしたり、デザインを工夫して、独特なサインとなったものが「花押」です。花押は後に簡略化され印章（はんこ）となっていきます。



図1 花押

へんさんじょ
東京大学史料編纂所
ホームページより

鎌倉時代から室町時代にかけては、貴族、武士だけではなく、民衆も文字で書かれたものに親しむ機会が増えていきました。多くの人は文字を読めない時代でしたが、民衆の間で言い伝えられていた物語が

記録され、文字を読める人が読み聞かせていたのです。題材も民衆になじみのある内容が増え、浦島太郎や一寸法師など、御伽草子といわれる物語集が作られていきました。

江戸時代になると読書の習慣はさらに広がり、民衆を読者として想定した物語が評判を呼んだり、それをもとにした歌舞伎や人形浄瑠璃などの戯曲が作られました。キ. 江戸時代の後半になると、出版社と大型書店をかねた「版元」という商売を営む人が増えました。ただ、本を自分で買って読む人はあまり多くなく、ク. 町人たちの間では貸本屋を通じて借りた本を読むことが一般的でした。

当時の読書は音読が中心で、文字を読める人が読み聞かせていました。商人が契約を結んだり、農民が訴えを起こしたりするときにも、読み書きのできない人には、読める人が読み聞かせていました。ケ. 名前を書く必要があるときは、文字の書けない人でも簡単に用いることができる印章が代わりに使われました。こうして印章は商人や農民に広まっていきました。

明治時代になって古い身分制度が改められ、学校制度がうまれると、より多くの人が読み書きできるようになっていきました。コ. 明治30年代にあたる1900年前後になると、読書のスタイルが、集まって誰かが音読するやり方から黙読に変わり、多くの本が出版されるようになりました。

人びとが本に親しむようになったことは、国民の政治参加をうながすうえで重要な役割を果たしました。江戸時代までは、最終的な決定内容を「お触れ」という形で示すだけでしたが、サ. ヨーロッパ諸国にならい、議会で議員たちが話し合った内容も、議事録として文字で残し公開すべきであると主張されるようになりました。江戸時代末期にヨーロッパから伝わった速記という技術は、帝国議会での議事録作りでも正式に採用されました。ちなみに速記制度は第二次世界大戦後も引きつがれ、録音機器が発展してもなお残りました。現在でも衆議院ではまだ使われています。

また、国民の政治参加を背景に、大正時代には新聞や雑誌がたくさん発行されるようになりました。参政権を持つのは男性だけでしたが、女性も含めて読書は奨励されていきます。本を読む人が多いことは、文明国の証でもあったのです。

もちろん、どのような本でも自由に販売^{はんばい}できたわけではありません。江戸時代から風紀を乱すとされた本は販売が禁止されていました。こうした風潮は戦争のときに、より強まります。とくに第二次世界大戦中は、本の出版が差し止められるだけではなく、個人的な手紙や記録の内容が事前に確認され、廃棄されてしまうようなこともありました。

戦後、シ. 出版の自由が保障された日本では、文字で記録された出版物がかつてないほどに増えました。雑誌の発行数、販売数、新聞の購読者数、全国の書店の数も増え続け、1990年代後半にはピークをむかえます。インターネットが飛躍^{ひやくてき}的に広がる1990年代後半まで、紙に文字を印刷した出版物は人びとの生活に欠くことのできないものでした。通勤や通学の列車では、新聞を巧みに小さく折って読んだり、漫画雑誌を広げたり、コンパクトな文庫本を見つめたりする人が多かったのです。学校の教室に子どもたちが読む本を集めた「学級文庫」を設けたり、文集を作ったりする文化も全国に広がりました。また、ス. 点字本や点字新聞のように、視覚的な障害を持った人でも出版物に触れられるようなものが普及して^{ふきゅう}いきました。

20世紀後半からの「デジタル化」の波は文字の記録の仕方を大きく変えました。まず辞書が1980年代後半に電子化されはじめました。1990年代にはさまざまな企^{きぎょう}業が独自の電子書籍リーダー（電子書籍を読むための専用の機械）を製造しはじめました。文書も紙で保存するのではなく、データにして保存していくようになりました。

最近では、読書の分野でも電子書籍が増えてきています。インターネットを利用して、電子書籍のデータを端末にダウンロードし、本のページをめくるように読むことが可能になりました。現在、電子書籍の売り上げのほとんどは漫画です。その結果、紙の漫画雑誌は数が少なくなりました。また2020年以降は電子書籍を自分の端末で読めるようにした地域の図書館も増えてきました。セ. 紙の本はまだなくなっていますが、インターネット上の通信販売で購入されることが多くなり、書店が生き残るのは難しい時代になっています。

ソ. 文字を読むという行為^{こうい}は、単に個人が情報や知識を仕入れることだけを目的とするものではありません。そこには文字の記され方、販売のあり方、そして読み方など、いろいろな人間の行為が形作ってきた文化が含まれています。インターネットの利用が当たり前になったこの時代、今まで書物などが担^{にな}ってきた文化はどのようにして残っていくのでしょうか。

問 1 下線部アについて。以下の①～③は漢字が刻まれた石や金属について説明した文です。それぞれ現在のどの県で出土したでしょうか。正しいものを以下のあ～おから1つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ^{し かのしま}志賀島から出土した金印には「漢 ^{かんのわのなのこくおう}委奴国王」と記されていた。
② ^{いなり やまこ ふん}稲荷山古墳から出土した鉄剣には「^{てっけん}獲^り加^か多^た支^し鹵^ろ大王」と記されていた。
③ ^{え た ふなやま}江田船山古墳から出土した鉄刀には「獲□□□鹵大王」（□は解読不能）と記されていた。

あ 埼玉県 い 静岡県 う 奈良県 え 福岡県 お 熊本県

問 2 下線部イについて。5世紀から7世紀ごろ、隼人、蝦夷とよばれる人たちが生活していた地域に含まれる現在の県名として、もっとも適当なものを以下のあ～おから1つずつ選び、記号で答えなさい。

あ 島根県 い 青森県 う 鹿児島県 え 富山県 お 高知県

問 3 下線部ウについて。奈良時代の朝廷は、10月から3月ごろにかけて各地から都に人を集め、技術者の指導のもとで紙を作らせていました。しかし、しだいに朝廷は紙を都で作らなくなり、各地で生産された紙を都に運ばせるようになっていきました。なぜ各地で紙を作ることが可能になったのでしょうか。説明しなさい。

問 4 下線部エについて。奈良時代の木簡を読み解くと、全国各地の特産物は税として直接都に運ばれていたことがわかります。しかし九州各地の税は^{ださいふ}大宰府に集められ、大部分はそこで使われていました。税の大部分を都に送らずに使うことが大宰府にだけ認められたのはなぜでしょうか。説明しなさい。

問 5 空らんオにあてはまる、日本語としての音が重視されたものの例を1つあげなさい。

問 6 下線部カについて。本文中にある図1の花押は、能を大成した^{かんあみ}観阿弥や^{ぜあみ}世阿弥を保護し、中国との貿易を始めた人物のものです。この人物の名前を答えなさい。

問 7 下線部キについて。この時代、例えば江戸で売れた本があると、^{おおさか}大坂や京都の版元がその本の作者と新たに契約し、同じ内容の本をそれぞれの場所で印刷、販売していました。なぜ江戸時代の本はそれぞれの場所で印刷、販売されていたのでしょうか。説明しなさい。

問8 下線部クについて。江戸の貸本屋は、町中に店を構えて客が来店するのを待つのではなく、図2にあるように版元から買った本を何冊も背負って得意先をまわっていました。このような商売をする貸本屋と版元は、密接な関係を持つことで互いに利益を得ていました。このような関係における、版元にとっての利点とはどのようなものでしょうか。2つ説明しなさい。

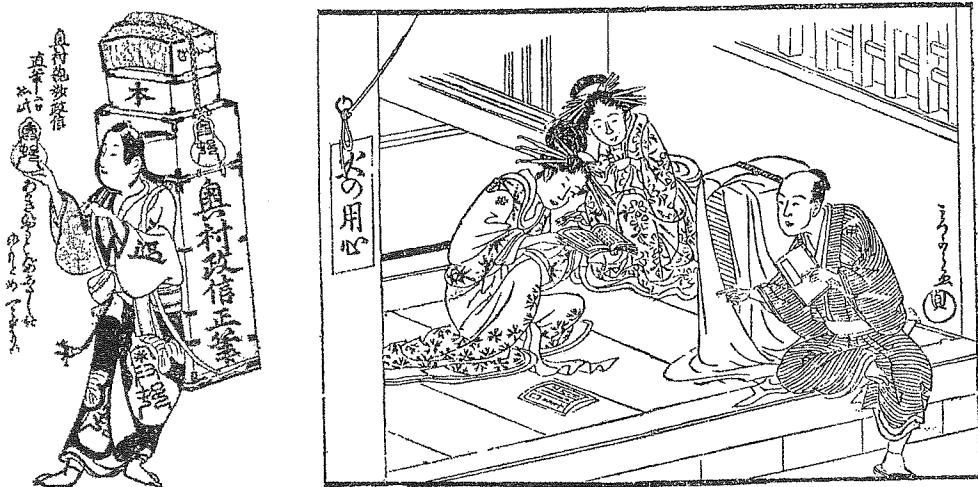


図2 江戸時代の貸本屋の様子

長友千代治著『近世貸本屋の研究』より

- 問9 下線部ケについて。江戸時代に広まった印章は、明治時代以降も契約を結ぶときに使われていましたが、明治政府は本人を特定しやすいなどの理由で、署名（サイン）を使わせようとしてしました。これに議会は反対し、従来の印章を使うことを主張しました。なぜ議会はこのような主張をしたのでしょうか。議員の役割を考えて説明しなさい。
- 問10 下線部コについて。黙読が広がったころ、鉄道を利用して長距離を移動する人も増えていきました。黙読の広まりと長距離移動者の増加の2つが互いに影響しあって大量の出版物をうみだし、読書が広がるきっかけになったといわれています。なぜそのように考えられるのでしょうか。説明しなさい。
- 問11 下線部サについて。議会で話し合われた内容を議事録に残すことは、民主的な政治を実現するうえで大切なこととされてきました。なぜ議事録を残すことが大切なのでしょうか。説明しなさい。
- 問12 下線部シについて。現在の日本社会では、どのような内容の本でも出版が許されるべきだとされています。このことは例えば科学の発展にとって大きな意味があり、まちがいを含む内容の本であっても、それが出版されることは科学の発展につながると考えられています。なぜそのように考えられるのでしょうか。説明しなさい。

問13 下線部スについて。ユニバーサルデザインやバリアフリーの意識が高まり、技術が進歩するとバリア（障壁）を減らしていくことができる一方で、技術の進歩が新たな障壁をうみだす場合もあります。点字を使っている人は、現在の社会で情報を得るときにどのようなことを新たな障壁と感じているのでしょうか。具体例をあげて説明しなさい。

問14 下線部セについて。7ページの地図1と地図2は1990年と2024年における東京都八王子市の書店の立地を表したものです。また図3のグラフは2003年から2023年までの日本全国における書店の総店舗数と総面積（店舗面積の合計）の移り変わりを表したもので、八王子市でも同じ傾向がみられます。現在の八王子市にある書店にはどのような特徴があると考えられるのでしょうか。地図とグラフの両方を読み取って説明しなさい。

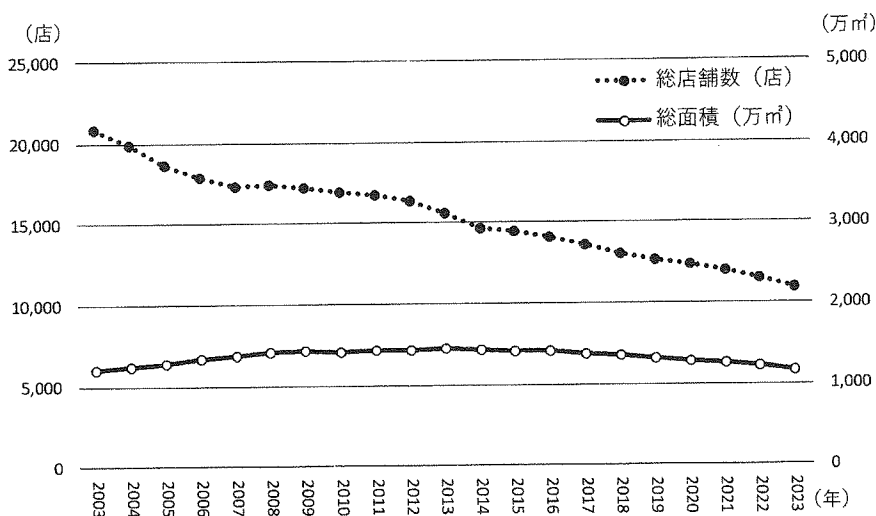
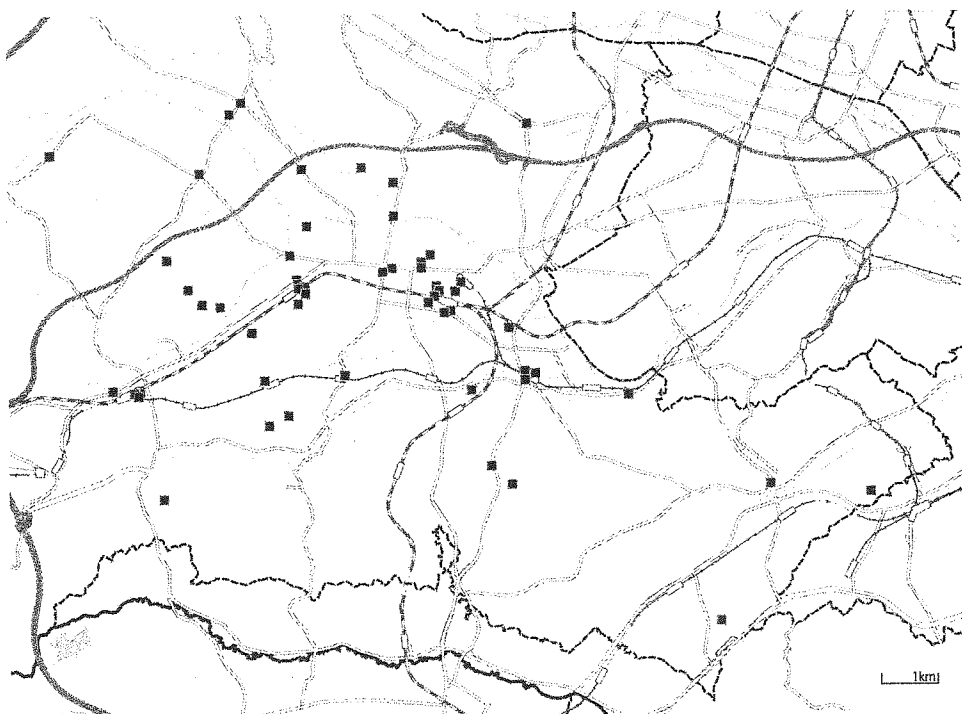


図3 日本全国における書店の総店舗数と総面積の移り変わり

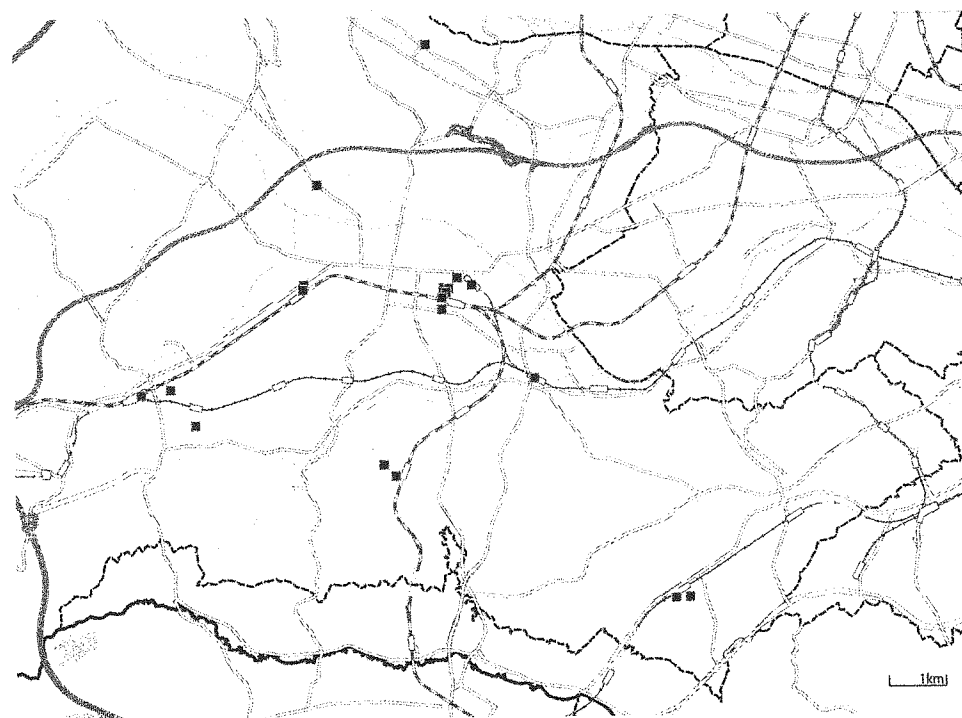
出版科学研究所資料より作成

問15 下線部ソについて。2023年度に文化庁が行った調査（※）によると、1か月にまったく読書をしないと答えた人が6割以上にのぼることが明らかになり、問題となっています。一方で、インターネットで読む情報を含めると、文字を読む量が以前と変わらない、もしくは以前よりも増えたと答えた人は7割以上いました。文字を読む量が増えているにもかかわらず、読書離れが問題になるのはなぜでしょうか。本を読むことが私たちにとって持つ意味を考え、100～120字で説明しなさい。ただし、句読点も1字分とします。

※令和5年度「国語に関する世論調査」（文化庁国語課実施）による。調査対象は16歳以上の個人。読書には電子書籍を含み、雑誌や漫画は除かれる。



地図１ 八王子市主要部における書店の立地（1990年）



地図２ 八王子市主要部における書店の立地（2024年）

地図１・地図２ともNTTタウンページ・地理院地図（国土地理院）より作成
いずれも鉄道・道路・境界線は2024年のもの。■は書店の位置を示す

〈問題はここで終わりです〉

〈以下余白〉

受験番号	
氏 名	

(2025年度)

社会解答用紙 (その1)

問 1 ① ② ③

問 2 隼人 蝦夷

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

問 8

問 9

(整理番号)

小 計

受験番号	
氏 名	

(2025年度)

社会解答用紙 (その2)

問10

問11

--

問12

問13

具体例

--

説明

--

問14

--

問15

(100)

(120)

(整理番号)

--

小 計
